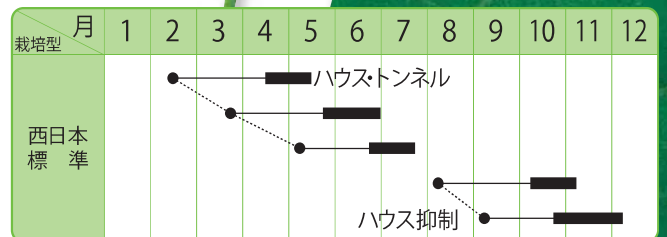


# ジャンボ菜豆

品質良く、幅広のすじなし大平莢種!!

●ジャンボな平莢のすじなしインゲン。●莢幅2cm、長さは20~25cmになる。●低節位から着莢する極早生で、莢は曲がり少なく、大莢になっても軟らかく風味たっぷりです。●草勢は旺盛で乾燥にも強い。●大莢だけに葉も大きくなり、株間は45cm以上が必要。



※栽培型は地方により異なりますので、貴地の気候に合わせて栽培して下さい。

※実物はさらにジャンボサイズです。

しあわせ たね  
幸福の種子を育てたい



中原採種場(株)

〒812-0893  
福岡市博多区那珂5丁目9-25  
TEL(092)591-0310(代) FAX(092)574-4266

ケイタイ電話で



簡単アクセス!!

インターネットでも、各品種の特性や新品種情報をご覧頂けます。また、農業最新情報など関連情報も満載です。

ホームページ <http://www.nakahara-seed.co.jp>

Emailアドレス [info@nakahara-seed.co.jp](mailto:info@nakahara-seed.co.jp)

## ■■■■■ インゲンの栽培 ■■■■■ ✓

### ①はじめに

インゲンは中南米を原産とされるマメ科作物で、つるあり種(つる性)とつるなし種(わい性)に大きく分けられます。お奨めの品種はつるあり種では平莢の『ジャンボ菜豆』、丸莢の『ロングラン菜豆』です。つるなし種では早生の『ポーター菜豆』、中早生の『スモール菜豆』などがあります。また福岡県内の一部で昔から栽培されている『むらさき菜豆』は、柔らかく美味しいので別名を「他人には分けたくない」という意味の“やらず豆”と呼ばれています。栄養価の高い夏野菜で、料理のアクセントとして彩りが冴えます。

### ②圃場準備

インゲンなどのマメ科作物は連作を嫌うので、3年以上あけて輪作するのが望ましいでしょう。土質に対する適応性は広いですが、肥沃で通気性、排水性の良い圃場が最も適しています。播種の2～3週間前に完熟堆肥を10aあたりに2,000Kg投入して深耕し、根群域を広く確保できるように地力を高めておきます。また酸性土壌では苦土石灰90Kgを施してpH6.0～6.5程度に矯正しておきます。

元肥は前作で残肥のある場合には概ね必要としませんが、営利栽培を目的するならば明確な成分量が必要となるため成分量で10aあたりにN13～16Kg・P15～20Kg・K10～15Kgを施します。

※つるあり種は元肥を多くしすぎると、つるばかりして着莢が遅くなるので注意が必要です。(元肥6割、追肥4割が目安)

### ③播種・定植

発芽適温が25～30℃と高いので、一般平坦地で直播の場合では3月下旬～5月上旬に播種します。乾燥を防ぐため予め圃場にたっぷりと散水し、つるあり種では畝幅150～180cmの2条(80～90cm)、株間30～40cmに1ヶ所に3粒播種し1～2cmほど覆土します。つるなし種は畝幅50～60cm・株間25～30cmで1ヶ所に3粒播種し1～2cmほど覆土します。発芽するまでの期間は、土壤水分を切らさないように灌水に気をつけ、本葉2枚の頃に隣の株を傷めないように根元から切りとるように間引きして2本立ちにします。

育苗する場合は、9cmポットに3粒程度を播種し、本葉1.5～2枚の頃に2本立ちにして本圃に定植しますが、特に活着するまでの期間は乾燥に注意が必要です。

※直播・育苗どちらでも栽培は可能です。短日植物のため開花・結実が短日条件下で促進されます。つるなし種は温度の影響を受けやすく、夏場の高温条件下では落花が増え、結実が極端に少なくなるので開花時期が夏場の高温期にかからないように播種期を選ぶことが必要です。

### ④栽培

生育適温は15～25℃です。開花・着莢時期に水分が不足すると、落花や曲がり莢が多くなりますので十分に灌水を行い、また追肥は開花時期と収穫始めの2回行ないます。1回の追肥は、10㎡当たり窒素成分30～40gです。

### ⑤整枝(誘引・支柱立て)

つるあり種の場合、本葉1.5枚目の上で摘心すると節から強い側枝が伸びてきます。一定間隔に支柱を立て横にネットを張り、伸びてきた蔓を誘引します。この作業が遅れると茎が折れ、生育に支障をもたらすこととなります。株元は風通しを良くし、病気が発生しにくい環境を心掛け、ネット上部に蔓が達した時点で再度適芯を行ない、側枝の発生を促進させます。側枝が上に伸びてきたら主枝と同様に摘心します。

つるなし種の場合でも、出来れば短い支柱を立てて倒伏を防ぎ、また過繁茂(肥料過多、高温、日照不足)が原因でつるが伸びる場合があるので早めに摘心して背丈が大きくならないようにします。

### ⑥収穫

収穫期に入ると混み合った葉や黄化した古い葉を摘み取り、つるなし種では開花後10～15日で小実のふくらみが目立つ前に収穫します。つるあり種はつるなし種に比べ大莢で収穫することが多いですが、いずれも適期を逃すと莢の肉質が硬くなり品質が低下し、さらに草勢を低下させ減収に繋がるので注意が必要です。

### ⑦ポイント

○つるなし種は雨による泥の跳ね上がりで莢の腐敗が発生しやすいので、マルチを敷くことで防ぐことができます。

○近年、温暖化の影響で猛暑が続くような年は、寒冷紗で被覆するなどの対策をとることも必要です